

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞ 国語「話すこと・聞くこと」「読むこと」 算数「数と計算」「図形」 ＜指導上の課題＞ 基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題がある。反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ 「ドリルパーク」「スタディサブリ」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。【単元の最初や最後に実施】 ⇒ 宿題等でも「ドリルパーク」「スタディサブリ」等を活用し、家庭学習の充実に取り組む。【週に2～3回程度の実施】
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ 国語「話すこと・聞くこと」「読むこと」 算数「数と計算」「図形」 ＜指導上の課題＞ 基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題がある。反復・習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ 授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする。【毎単元設定】 ⇒ 振り返りをふまえ、授業において、児童とともに必要感のある課題を設定したり、児童が主体的に課題を解決したりする場を設定する。【毎授業実施】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	① 結果分析(管理職・学年主任等) ② 詳細分析(学年・教科担当) ③ 分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	調査結果
思考・判断・表現	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の問題に課題が見られた。また、問題形式が選択式ではなく短答式・記述式の問題もより正答率が低い傾向にある。算数では、すべての領域、観点、問題形式で課題が見られた。四則演算等、基礎基本定着が不十分だと考えられる。理科では、知識・技能の平均正答率において、全国平均を上回り、成果があった。R7全国学力・学習状況調査の児童質問「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」に対する肯定的な回答の割合が大きい。児童の意識と知識・技能の結果に差が見られるので、今後も児童主体の個別最適な学びを進め結果に繋げられるよう、教職員の研修を積んでいく。
思考・判断・表現	国語では、書くことの記述式の問題に課題がみられた。正答率が低いことに加え、無回答率も全国平均・県平均より高い傾向にある。算数では、すべての領域、観点、問題形式で課題が見られた。特に図形の面積の求め方を書く問題では、大きく全国平均から離れている。昨年度の全国学力・学習状況調査においても、思考・判断・表現全体の正答率が低いことから、学校全体の課題といえる。理科では、問題によっては全国平均を上回る問題もあるが、全体としては全国平均を下回っている。根拠を予想して解答する問題に課題が見られた。

- ① 結果分析(管理職・学年主任等)
② 詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	単元の最後や宿題等でも「ドリルパーク」「スタディサブリ」等を活用し、復習や家庭学習に取り組む一連の流れを形成できた。	変更なし
思考・判断・表現	B	毎単元の終わりには必ず振り返りの時間を設定し、実施することができた。児童がより主体的に課題を設定・解決できるようにしていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)